

2025年11月23日

安全対策セミナー スウェーデン

コントロール・リクス・グループ株式会社

本日の構成

1. スウェーデンのリスク環境
2. 実技で学ぶ安全対策
3. 安全対策グループワーク



安全対策セミナー

スウェーデンのリスク環境

- ▶ 主なリスクとその評価
- ▶ 個別のリスクについて

▶ スウェーデンにおける主なリスク

テロ・過激派の暴力

ハイブリッド型脅威

ギャング・組織犯罪

ヘイトクライム

路上犯罪

スウェーデンのリスク評価

- 「北欧は安全」と思いすぎない
 - 比較的安全だが、一定の注意が必要
 - 特にギャングによる爆弾・銃撃事案は注意
 - サイバー攻撃を含むハイブリッド型脅威にも注意
 - ヘイトクライムの動向にも気をつけておく
 - 周辺国との比較
 - 他の北欧諸国と比較すると若干リスクが高い
 - ドイツやフランスに比べるとまだ安全性は高い
- (旅行・出張時には警戒レベルを上げる)

スウェーデンと周辺国のリスク評価比較*

国名	テロ	犯罪	暴動	サイバー
スウェーデン	L	L	L	H
ノルウェー	L	VL	VL	H
フィンランド	VL	VL	VL	H
デンマーク	L	VL	VL	H
ドイツ	M	L	L	H
フランス	M	L	M	H

極めて高い	高	中	低	非常に低い
Extreme	High	Middle	Low	Very Low

* 弊社評価に基づく
(外務省の危険レベルとは異なることがあります)

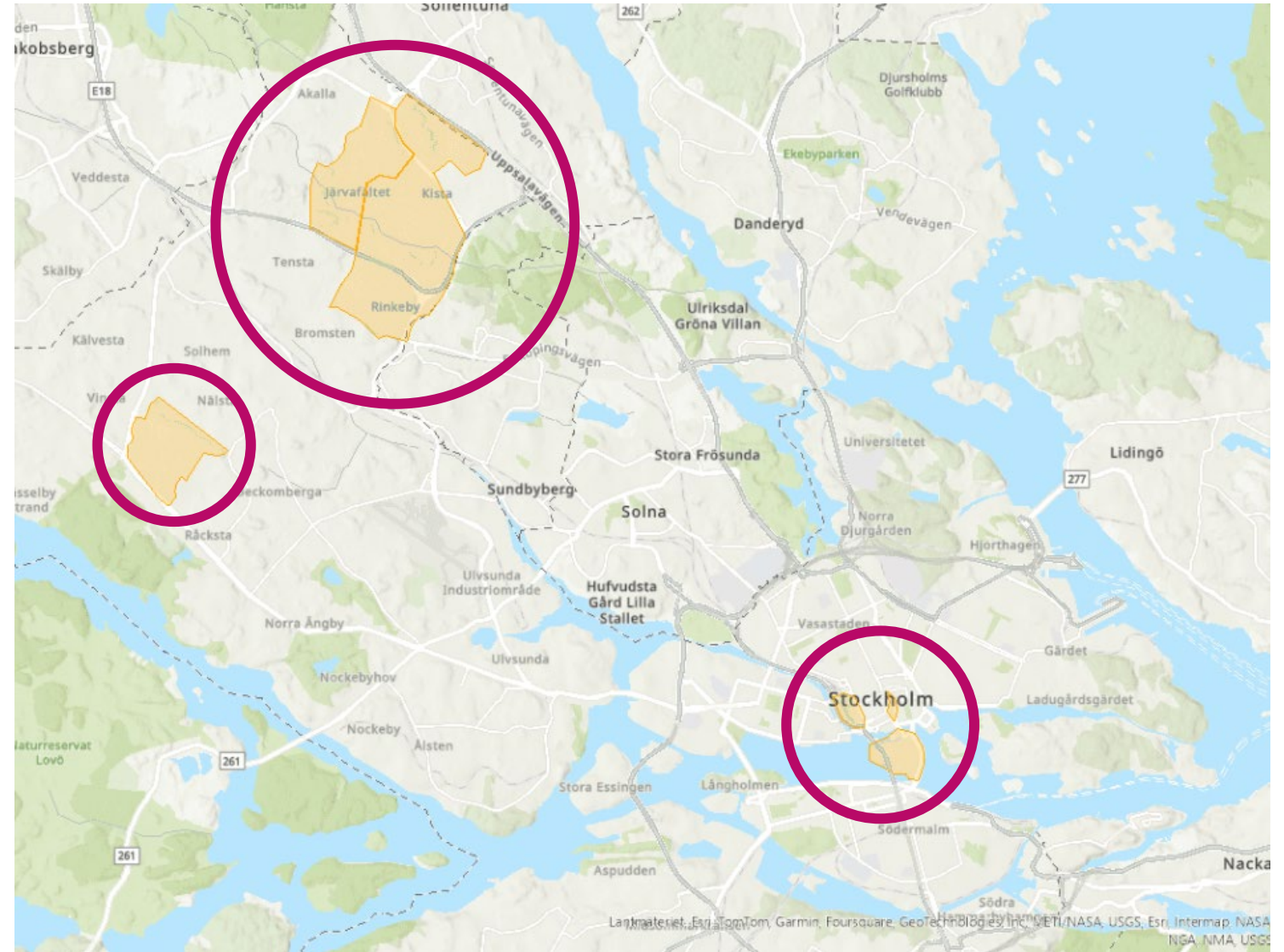
▶ スtockホルムの要注意地域*

▶ ギャングの暴力が多い地域

- ◆ ヤルヴァ、リンケビー、ハスビー
- ◆ フィティヤ
- ◆ アルヴィ

▶ 一般犯罪の多い地域

- ◆ スtockホルム旧市街
- ◆ その他観光地



* 弊社評価（Seerist）に基づく

▶ 銃撃・爆発事件

▶ 銃撃事件は高水準

- ◆ 年間約300件の銃撃事件が発生
- ◆ オフピークだが依然として高い水準
- ◆ 爆発事件は年間100件以上
- ◆ ギャングや犯罪組織によるものが多い

▶ 注意すべきポイント

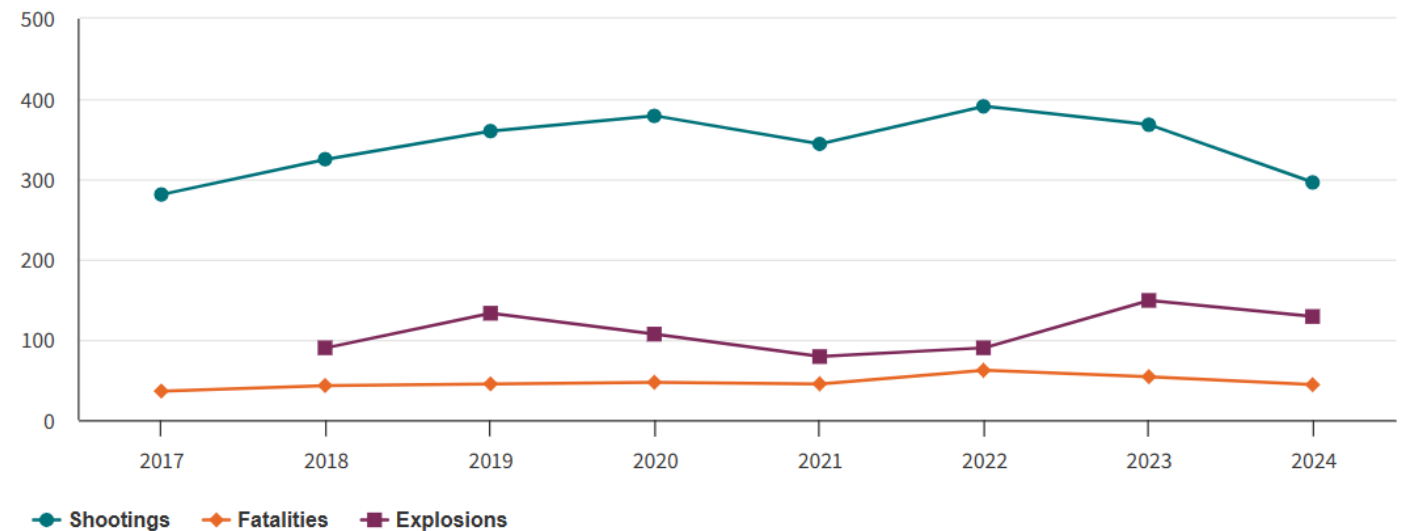
- ◆ スtockホルム郊外では注意を払う
- ◆ 「逃げる」「隠れる」の原則と方法は、
家族で共有しておく

Shootings and explosions

Chart

Table

Menu



Number of shootings* and fatalities in relation to shootings, as well as explosions (or detonations, that is confirmed instances of destruction causing public endangerment).. Source: Swedish Police

* Brå (The Swedish National Council for Crime Prevention), "Shooting and violence"

▶ 主な銃撃・爆発事件

2025年8月 オレブロ	<ul style="list-style-type: none">モスク付近で発砲があり、1人が死亡、1人が負傷ギャングによるものと考えられている
2025年2月 エーレブレ	<ul style="list-style-type: none">成人向けの教育施設で銃乱射事件容疑者を含む11人が死亡、6人以上が負傷
2025年4月 ウプサラ	<ul style="list-style-type: none">ウプサラ中心部のファクサラ・スクエアで発砲事件3人が死亡、未成年者が逮捕された
2023年9月 ストックホルム郊外	<ul style="list-style-type: none">ストックホルム郊外のハッスルビーとリンケピンで爆発事件住居用ビルの近くで爆発が起き、少なくとも3人が負傷
2023年6月 ストックホルム郊外	<ul style="list-style-type: none">ストックホルム郊外のファルスタで銃撃事件地下鉄駅の外で銃撃が起き、2人が死亡、2人が負傷

▶ 主なテロ関連事件

2025年2月 ストックホルム	<ul style="list-style-type: none">・ イスラム過激派に関係した 1 人が逮捕・ テロを計画していたとの容疑
2024年5月 ストックホルム	<ul style="list-style-type: none">・ イスラエル大使館を狙ったテロ未遂事件が発生・ 1 名は移動途中に拘束、もう 1 名は大使館付近で発砲・ イランとのつながりが指摘されている
2024年3月 ドイツ	<ul style="list-style-type: none">・ スウェーデンの議会を襲撃しようとした容疑で 2 人が逮捕・ 逮捕場所はドイツ東部・ 「イスラム国」の関与が指摘されている

▶ 拘束事件は少ないとは言えず、「起きるはずがない」事件ではない

▶ ハイブリッド型脅威

▶ 国家間対立＋サイバー攻撃

- ◆ ロシア、イランなどとの国家間対立
- ◆ 「ロシアは最大の脅威」 (Sapo) *
- ◆ ドローンなどの脅威＋サイバー攻撃

▶ 注意すべきポイント

- ◆ インフラの停止や通信の混乱など
- ◆ ドローン侵入時には慌てず行動
- ◆ 家族などとの集合場所を決めておく

通信ハッキング事件**

- イランの支援を受けた組織がSMSなどのメッセージアプリをハッキング
- 「コーランを焼く者に復讐を」などのメッセージを15,000通以上発信
- Sapoが2024年9月に公的に非難

* BBC, 11 March 2025, "Sweden says Russia is greatest threat to its security"

** BBC, 25 September 2024, "Sweden blames Iran for cyber-attack after Quran burnings"

▶ その他の犯罪

▶ 窃盗・詐欺・薬物

- ◆ 窃盗、詐欺、薬物犯が一般犯罪の上位 3 種類
- ◆ 窃盗の発生率は日本のおよそ 7 倍
(日本では年間約50万件)
- ◆ 薬物犯は顕著に多い
(日本では年間約1万3000件)

▶ 注意すべきポイント

- ◆ 比較的安全な国とはいえ、一定の注意を払う
- ◆ 特に薬物関係には絶対に近寄らない

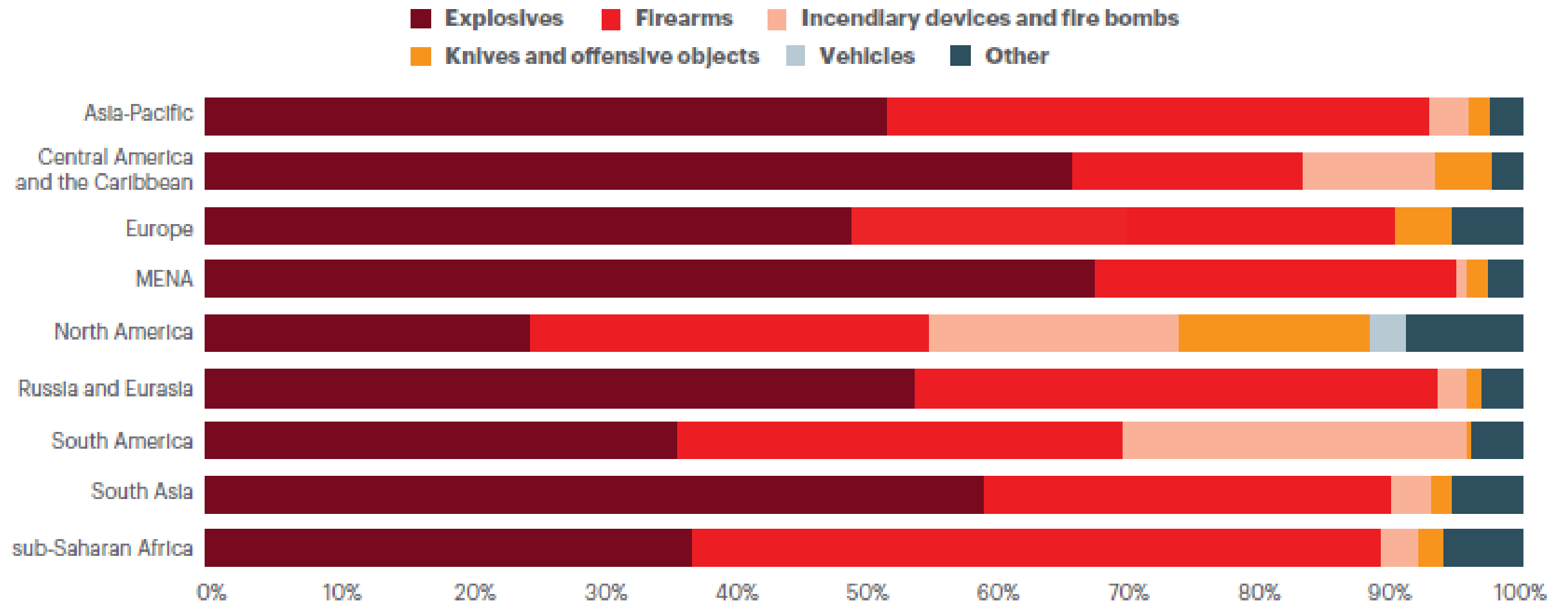
一般犯罪件数と構成比（2024年）＊

総犯罪件数	1,489,319
窃盗	348,551（23.4%）
強盗	4,760（0.3%）
侵入盗	10,427（0.7%）
詐欺	230,330（15.5%）
薬物犯	130,297（8.7%）

＊ Brå (The Swedish National Council for Crime Prevention),
"Statistics from the judicial system"

テロの攻撃方法

- ◆ 2007年から2022年までの事件数から分析
- ◆ 爆発物が最も多く、次いで銃撃、火炎瓶、刃物、車両の順
- ◆ 地域ごとの差にも注意し、行先での傾向をつかむことが重要



▶ 銃撃の特性

銃撃の危険性は、弾丸による殺傷性に加えて、発砲音と閃光が心理的に重大な影響を及ぼすこと。

▶ 弾丸の危険性

- ◆ 通常は直線的な弾道を描くが、壁や床等により「跳弾」が発生する。

▶ 発砲音と閃光による影響

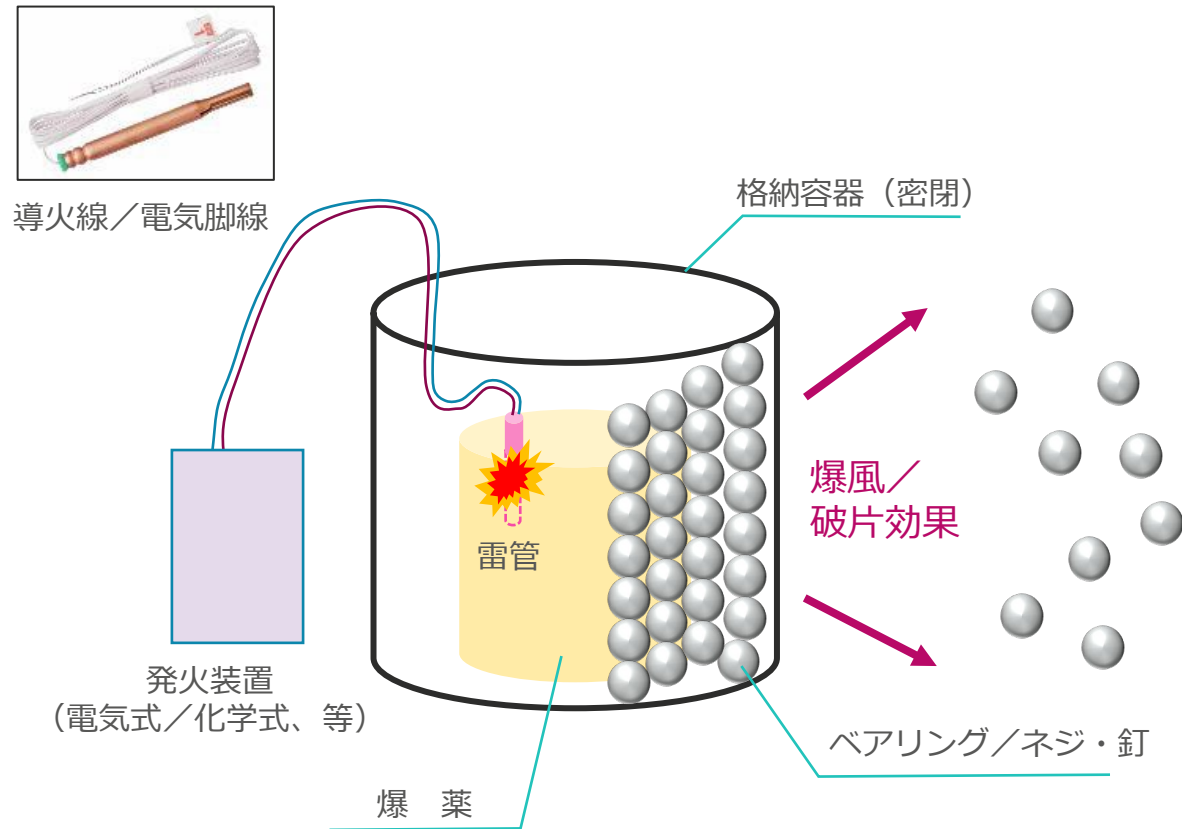
- ◆ 発砲音：拳銃／ライフルは約160～170デシベルの音が発生し、至近距離では聴覚障害を引き起こすほか、室内では衝撃波を感じるほどの圧力がある。
- ◆ 閃 光：銃口から発生する閃光は、視覚的な影響により思考を停止させる。

= 「**次にあの音と光が出たら、誰かが死ぬ**」という恐怖感
(恐怖心によるパニックと身体／思考の硬直)



▶ 爆発物の性質

一般的な爆弾の構造



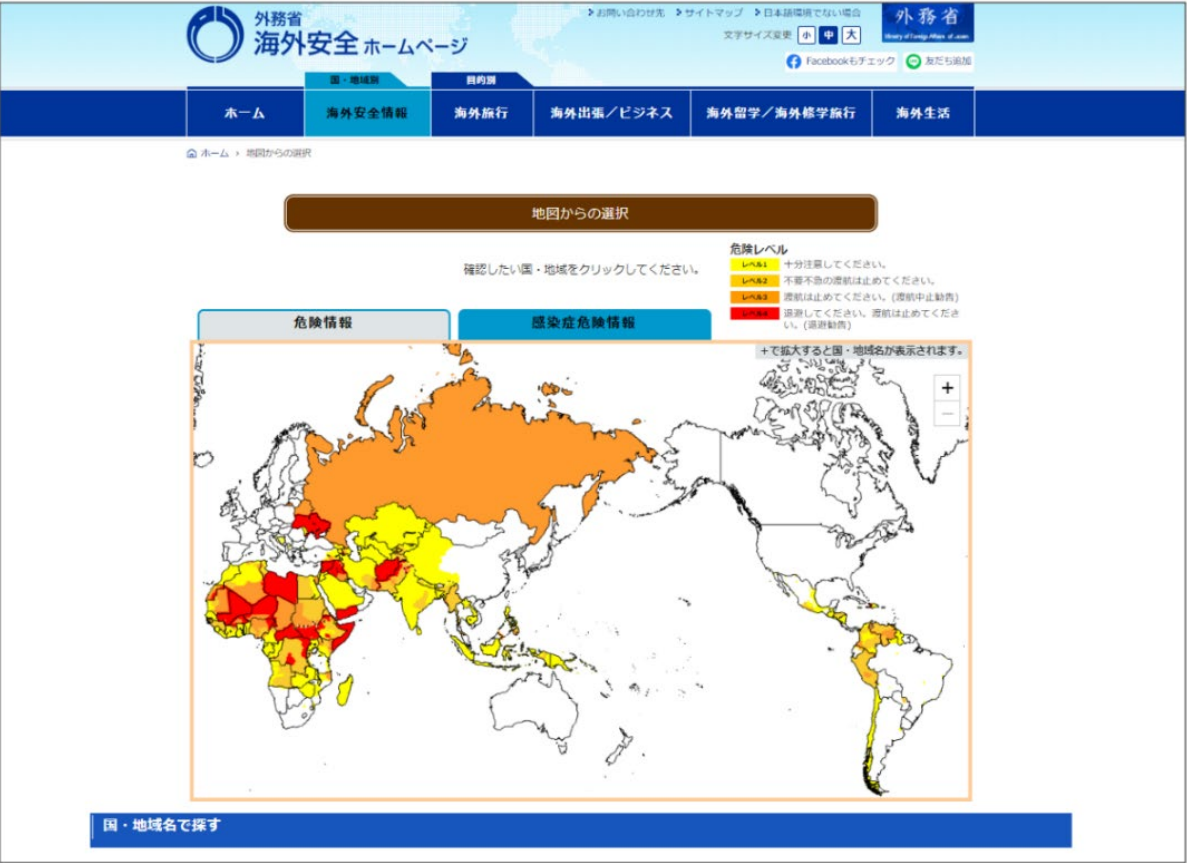
ボストンマラソン爆弾テロ事件 (2013年)



圧力鍋およびベアリング・釘が使用された

外務省情報の活用

国・地域でのリスクの存在を把握するのが「面の安全対策」。
これを把握しアップデートするうえで、基本とすべき手法が、外務省情報の活用。



海外安全ホームページ

外務省
オンライン在留届
ORR(Overseas Residential Registration)net

よくある質問 お問い合わせ 外務省

在留届の提出は、外国に住所又は居所を定めて3か月以上滞在する方が対象です。

※在留届は、旅券法第16条により、その地域を管轄する日本大使館または総領事館に提出することが義務付けられています。

海外転勤になった

海外留学する

海外に永住・長期滞在する



オンライン在留届

▶ 不必要な情報開示を避ける



デジタル・フットプリントのイメージ

▶ 犯罪者の多くは事前に標的の情報を収集

- ◆ 実行しやすい標的の選定
- ◆ 実行しやすい時間・場所の特定

▶ 基本的な注意点

- ◆ メディアへの不用意な露出は避ける
- ◆ SNSに情報をさらさない
 - Instagramに自宅内部の写真をアップする
 - レジャーでの行先をアップする
- ◆ 公開範囲は「狭めすぎ」なくらい絞る

▶ 自分のコンディションを意識する

▶ 以下のような要因は、リスクを高めたり、判断力を鈍らせやすい

■ 夜間の行動

■ 異なる法律・司法制度

■ 疲労

■ 交通事情の違い

■ 「観光客らしい」見た目

■ インフラの違いや欠如

■ 慣れない気候や環境

■ 異なる社会規範

■ 文化的な差異